

令和元年度 第2回学校運営協議会（議事録）

出席者（別紙）

1 校長挨拶

2 報告① 学校経営計画進捗状況について（校長より）〔別紙参照〕

- ベネッセ基礎力診断テストの結果
全体と総合クラスは上位・中間層が減り、下位層が増加傾向にある。
工学系の平均値は上昇傾向にある。
- 問題行動が増加傾向にある。
- 遅刻件数は昨年度の同時期から半減しているが、3年生の進路決定後は増えている。
- 退学率は0.22%と全国平均よりは低い。
- 就職一次内定率は86.8%と過去最高。
- 部活動加入率は減少傾向にある。

報告② 各科・系の進捗状況（各科・系長より）〔別紙参照〕

報告③ 各分掌の進捗状況（各分掌長より）

3 協議

Q. ベラルーシ（海外交流）への生徒参加の報告をお願いしたい。

A. 本校外国語科教諭が団長となり参加したが、本校生徒は諸事情により辞退した。在校生でも数名参加を希望している。次年度に期待している。

（助言）大工大では国際PBLの一環でタイやマレーシアに行っている。海外を経験することで刺激を受け学修意欲が増し、大学院への進学率が増えたことがある。

Q. 工科高校PBL、総合的な探究の時間、観点別評価に向けての課題について説明していただきたい。

A. 工科高校改革では、2学年で総合的な探究の時間を2単位開設するため、教育課程の大幅な見直し

をしなければならない。また、3学年の課題研究では、所属系を超えて混成チームさらには、全系同時実施でものづくりに取り組むことになる。そのための時間割が組めるのか、設備は足りるのか等の課題がある。現在は、まだカリキュラムマネジメントを構築している段階で、学校として育成する資質・能力（コアコンピテンシー）を決めていく予定である。

（助言）企業でも、多様性のある構成メンバーでものづくりをしている。混成チームでの取り組みは、評価されているので、ぜひ取り組んでほしい。

Q. ドローンを教材として取り組む予定はあるのか。

A. 以前教材研究はしていた。現在は2年生で作成した基盤を3年生で展開したいと考えている。プログラム言語Pythonやmicro:bitなどを今後は活用できればと考えてるが開発にはもう少し時間を要する。ドローンとなるとネットワーク環境が整っていないこともあり、具体化はできていない。Bluetoothでの通信で進めていきたいと考えている。

工学系で教材として開発する意欲はあるが、予算的な問題がある。

（要望）部活動ベースでも構わないのでぜひ取り組んでほしい。淀工カップを開いたり、工科高校同士で大会を開催すると面白いと思う。

Q. 部活動は人格形成に大きく寄与している。加入率を高めてほしい。（目標値は高めにしてほしい）

A. 教員でかなり年度はじめの声かけや啓発を行ってはいる。アルバイトに流れてしまっている。

Q. バイオコークスの取り組みについて詳しく教えてほしい。

A. 今年度はどういう原料から作るかを検証している段階である。次年度以降どのように動かすかをテーマにと考えている。

（助言）ホップステップで終わらないようにしてほしい。ポイントがどこにあるのか不明瞭。

Q. 工学系の取り組みが活発な要因を教えてください。

A. 普通科の教員も含め、使命感をもって取り組んだ結果である。クラブ加入率も工学系だけで見れば非常に高く、活発になっている要因と考えている。